最後は『銀の匙』です。今までありがとうございました。

ちょっと聞いてよ!

JA西日本くみあい飼料株式会社近畿支店　獣医師　中尾 継幸（なかお つぐゆき）氏

広酪本所の入り口カウンターの上にも用意されている映画「銀の匙」のパンフレット。この映画は北海道・帯広の農業高校を舞台に、俳優の中島健人さんらが演じる酪農科学科の生徒達が学園生活や様々な実習などを通して、畜産学の知識とともに畜産経営とは何かを考えながら、人間として成長していく姿を爽快に描いた作品です。広酪の職員の方々からも、この映画を大いに推薦いただき、映画館に足を運ぶのはもう何十年ぶりのこととなりましたが、私も早速視聴して参りました。

あまり内容に触れるとストーリーを明かすことになるので、詳細は皆様も実際にご覧になられてからのお楽しみ、ということにさせていただきますが、私見ながら感想としては、さすがに前評判にたがわず見どころの多い内容でした。映画なので多少の演出は当然あるとは思うものの、牧歌的な風景とともに人間の内面的感情がリアルに描かれ、ところどころに畜産や酪農が持つ厳しさにも触れられており、物語が進むとともに清々しく、どこか懐かしい気分に浸りながらも、少し辛く切ない気持ちにもなりました。場面の数だけ思い感じるものがありましたが、終演となり映画館を後にして少しずつ余韻が消えてく中でも、頭の中に浮かび続けたことは、これから十年後や二十年後さらにもっと遠い将来も、このような畜産や酪農を題材に取り上げた映画や物語が楽しく、面白く、若者の夢の一つとして描かれ、上演されるような日本であって欲しいということ、そして「うまく言えませんが）やっぱり酪農っていいな」ということです。

約四年間の長きに亘り、このコラムを書かせて頂きましたが、今回をもちまして筆を置くことになりました。乳牛に接する日常の中で、興味を抱いたことや疑問に感じたことなどを、酪農に携わる一人の人間の立場から、過去の体験も含め、時には牛の気持ちにもなりながら、毎月の文章を書かせていただきました。皆様の記憶に少しでも何らかの印象に残る話題がございましたら光栄に思います。このような連載の機会を与えていただき、本当に感謝する次第です。

桜の時期もあっという間に過ぎ去り、これからは少しずつ暑さが増して参りますが、皆様におかれましては健康にご留意頂き、今後ますますのご多幸とご発展を心よりお祈り申し上げ、お礼のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。